

農 林 委 員 会 委 員 協 議 会 記 録

1 会議の日時	令和2年1月24日 開 会 午後 0 時 5 6 分 閉 会 午後 1 時 5 5 分	
2 会議の場所	農 林 委 員 会 室	
3 出席者	委 員	委員長 松 岡 正 人 副委員長 布 俣 正 也 小 川 恒 雄 野 村 美 穂 藤 本 恵 司 所 竜 也
	執 行 部	別 紙 配 席 図 の と お り
4 事務局職員	係長 横 川 真 澄 係長 佐 藤 貴 一	

5 会議に付した案件		
件	名	審 査 の 結 果
1	棚田地域振興法の概要について	
2	森林総合教育センター（愛称：morinos）の建設進捗状況について	
3	その他	

6 議事録（要点筆記）

○松岡正人委員長

それでは、ただいまから農林委員会委員協議会を開会する。

本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るため開催したものである。

議題は、お手元に配布しました次第のとおりである。初めに、「棚田地域振興法の概要について」を議題とし、執行部の説明を求める。

（執行部挨拶 萩原林政部長）

（執行部説明 小野寺農村振興課長）

○松岡正人委員長

ただいまの説明に対して、質疑はあるか。

○小川恒雄委員

棚田の定義は何か。

○小野寺農村振興課長

傾斜地に階段状に設けられた田のことである。

なお、棚田地域振興法で規定された「棚田地域」とは、昭和25年の市町村の区域内で、勾配20分の1以上かつ面積1ha以上のまとまった田のある地域のことである。

○小川恒雄委員

県内に棚田と称するものはいくつかあるが、この法律では、歴史的背景のある昔からの棚田と、戦後の開拓で造られた新しい棚田とは、区別していないのか。

○小野寺農村振興課長

法律では、歴史を勘案して棚田を設定しているわけではない。

棚田地域として指定することで、関連事業の優先採択や加算措置、補助率の嵩上げなどの国の支援制度を活用できる。棚田を将来守っていく意志のある地域を支援し、棚田地域全体を保全していこうというものである。

○小川恒雄委員

実際に棚田を守るには、法面の草刈りなどの維持管理が一番大変。全ての棚田を保全することはできないと思われることから、守るべき棚田を選定するべきではないか。

○小野寺農村振興課長

現在、棚田を保全する活動組織は県内に14団体あり、将来的に棚田を守っていきたいという意向を有している。まずは、このような棚田を指定棚田地域にして、いろいろな施策を講じていきたい。

○小川恒雄委員

4千haある県内全ての棚田の管理は大変。条件に合致する傾斜地を全て棚田とするのではなく、特定の棚田だけを指定して、その地域だけでやっていけばよいのではないか。

○松岡正人委員長

4千haの中で、できるだけ多く指定するのか、維持管理可能な地域を取捨選択して指定するのか、関係市町村と調整のうえ、目標値などを定めていただきたい。

○野村美穂委員

棚田の主傾斜20分の1の測り方は。

○小野寺農村振興課長

棚田の下側から上側に向かって20m水平に行ったところで、1m高さが上がることである。

○野村美穂委員

棚田の多面的機能とは何か。また、棚田における6次産業化とは何か。

○小野寺農村振興課長

多面的機能とは、農地が有している洪水防止、水源涵養、安らぎなどの様々な機能のことである。

6次産業化については、例えば「棚田で作った米」をパッケージして都市部で販売したり、棚田地域で穫れた農産物を「〇〇棚田の農産物」として加工・販売するなどして、所得向上につなげるものである。

○松岡正人委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって、「棚田地域振興法の概要について」に関する質疑を終了する。次に、「森林総合教育センターの建設進捗状況について」を議題とし、執行部の説明を求める。

(執行部説明 可知林政課長)

○松岡正人委員長

ただいまの説明に対して、質疑はあるか。

○小川恒雄委員

過去に学校の先生に農業を学んでもらう施設があったが、今はもう無くなっている。その二の舞になるのではないか。指導者や受講要望が少なくなってくることも危惧される。センターの運営を指定管理に出すなど、民間の力を借りることも一つの手ではないか。

○可知林政課長

学校の先生方に森林教育、安全管理等を学んでもらうプログラムを検討している。また、運営の基本方針は県が決定するが、実際の運営については、NPO法人等への委託も視野に入れて検討している。

○野村美穂委員

愛称の「morinos」の由来は何か。

○渡辺森林文化アカデミー事務局長

「森の巣」を表したものである。多くの方に森林空間で育ち、巣立って行ってもらいたいという願いを込めて決定した。

○藤本恵司委員

先日視察させてもらったが素晴らしい建物だった。しかし、建物までの道がわかりづらいため、誘導看板等の整備が必要ではないか。

○渡辺森林文化アカデミー事務局長

順次、誘導看板を設置しているところである。主要道路から進入口への誘導看板の設置をはじめ、森林文化アカデミーの構内に入ってから、期待感が高まるような誘導ができるよう、工夫を凝らす予定である。

○松岡正人委員長

プログラムについて、教育委員会や健康福祉部等との連携、情報交換は行っているのか。

○渡辺森林文化アカデミー事務局長

資料中の「森のじかん」は小学校と連携し、学校の授業の一環として行っている。また、「夏の森を楽しむ」では、NPO法人を通じて特別支援学校と連携して行っている。

○松岡正人委員長

教育や健康福祉の分野でも様々な活用方法が考えられると思うので、広く広報を行い、多くの人に活用してもらいたい。

また、建設工事が完了する2月28日からオープン予定の5月15日まで、なぜ2か月間もあるのか。

○渡辺森林文化アカデミー事務局長

建物の完成後、家具や備品の搬入・整備を行うため、5月の連休明けをオープンに設定した。

○野村美穂委員

世代別に提供する森林教育プログラムは、一般の方が飛び込みで当日参加できるのか。

○渡辺森林文化アカデミー事務局長

プログラムは事前申込みのうえ参加していただく。現在、PRとしてホームページへの掲載や近隣施設へのチラシの配布を行っている。

○松岡正人委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって、「森林総合教育センターの建設進捗状況について」に関する質疑を終了する。

以上で、本日の議題は終了したが、何か意見等はあるか。

○所竜也委員

現在、揖斐川町の森岡養豚が経営再開に向けた準備を行っている。意見交換したところ、来年度も施設整備が残っているとのことであり、来年度も引き続き支援をお願いしたい。

○松岡正人委員長

C S F発生農家の経営再開に向けた支援について説明していただきたい。

○長尾農政部次長

現在、本格的に再開したところは1件、豚を導入しているところは数か所ある。

多くの農場が来年度前半に再開することから、引き続き支援を行っていく必要があると考えている。

具体的には、農場の飼養衛生管理を高めるためのハード整備や専門家による指導等のソフト経費の支援を想定している。

○所竜也委員

いのししの広域捕獲事業は今年度いっぱいまでと聞いている。今年度の進捗と来年度以降の実施見込みは。

○田村野生いのしし対策室長

捕獲実績は、11月が84頭、12月が162頭で、12月末現在の合計は246頭。4月以降は、有害捕獲と調査捕獲でスタートしていく中で、状況を見つつ広域捕獲事業の判断をしていきたい。

○所竜也委員

来年度も是非継続していただきたい。

○小川恒雄委員

現在、いのししに経口ワクチンを散布している最中だが、来年度も同じような計画を立てているのか。

○田村野生いのしし対策室長

来年度も経口ワクチン散布を実施する方向で考えており、国と4月以降の散布について打ち合わせを進めている。

○小川恒雄委員

経口ワクチン散布は息の長い話なので、昨年だけでやめてしまっただけでは何の効果もない。ドイツやリトアニアでも解決できるまでに4年、5年とかかっている。先例にならい、同様の年数が必要と考えるがどうか。

○渡辺農政部長

経口ワクチンの散布はヨーロッパでも5年、10年と行っている。国も同様に考えていると思うので、国と連携をとって進めていきたい。

○小川恒雄委員

国がやめることになったから、岐阜県もやめるということになれば大問題。結果が出ないうちに、やめることのないようにしてほしい。

○平野農政部次長

来年度の方針をこれから国と相談することになっている。来年度の散布の仕方について、県の考え方を聞かせて欲しいと言ってきているので、当然国も経口ワクチンの散布を考えていると思う。引き続き、

国と連携して、いのししの捕獲と経口ワクチンの散布を進めていきたい。

○小川恒雄委員

3月は人事異動の時期。人が変わればやり方を変えるということもありうる。担当者には粘り強く説得し、当分の間続けてもらえるよう働きかけをしてほしい。

○松岡正人委員長

執行部の方から国への働きかけをしていただくとともに、議会としても意見書提出を検討して、国に対してきちんと県の意見を伝えていけるようお願いする。

○布俣正也副委員長

雪が降っていない。3月から5月にビニールハウスの準備が始まるが、その時期のドカ雪が心配。また、その後の水不足も懸念される。何か対策はあるのか。

○井戸農産園芸課長

国の農業用ハウス強靱化緊急対策事業の要望調査を実施し、随時、ハウスの補強などを進めている。

○布俣正也副委員長

私の経験から、今年は3月に重たい雪が降ることが予想される。慌ててハウスにビニールを被せると被害が出る恐れがあるので、県からも啓発してほしい。

○松岡正人委員長

特に長良川水系はダムが少ないので、水不足について事前の対策を検討していただきたい。意見等も尽きたようなので、これをもって、本日の委員協議会を閉会する。

農林委員会委員協議会配席図

令和2年1月24日

			高木(龍) 治山課 森林監視指導監	桑田 里川振興課 水産振興室長	渡邊 農政課 管理調整監	酒井 農政課 技術総括監	宮田 農政課 農業研究企画監	横山 家畜防疫対策課 家畜防疫対策監
--	--	--	-------------------------	-----------------------	--------------------	--------------------	----------------------	--------------------------

↑ここより椅子のみ

伊藤 森林整備課 森林経営対策監	安達 林政課 技術総括監	西村 農地整備課長	山口 農政課 笠松競馬支援室長	高木(昌) 農政課 スマート農業推進室長	高木(賢) 農産物流通課 東京オリエンティックバラリン ビック農産物販売対策室長	加留 農業経営課 担い手対策室長	松野 畜産課 飛騨牛銘柄推進室長	田村 家畜伝染病対策課 野生いのしし対策室長
------------------------	--------------------	--------------	-----------------------	----------------------------	---------------------------------------------------	------------------------	------------------------	------------------------------

上出 林政課 管理調整監	藤掛 恵みの森づくり推進課 木育推進室長	藤下 林政課 100年の森づくり 推進室長	渡辺 森林文化アカデミー 事務局長	後藤 畜産振興課長	高井 家畜防疫 対策課長	大口 家畜伝染病 対策課長	小野寺 農村振興課長兼 鳥獣害対策室長	清水 里川振興課長
--------------------	----------------------------	--------------------------------	-------------------------	--------------	--------------------	---------------------	---------------------------	--------------

入口側

寺田 治山課長	臼井 森林整備課長	久松 県産材流通課長	中根 恵みの森づくり 推進課長	田口(博史) 農政課長	飯盛 検査監督課長	田口(博康) 農産物流通課長	足立 農業経営課長	井戸 農産園芸課長
------------	--------------	---------------	-----------------------	----------------	--------------	-------------------	--------------	--------------

可知 林政課長	高井 林政部次長	平井 林政部次長	荻巣 林政部長	渡辺 農政部長	長尾 農政部次長	平野 農政部次長	小宮 農政部次長	兩宮 農政部次長
------------	-------------	-------------	------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------

